

経済8・10面
 国際13・15面
 教育18面
 スポーツ20・21面
 芸能23面／囲碁・将棋23面
 金融情報24・25面
 生活27・28面／小説30・35面
 人脈記31面／地域32・33面
 TV・ラジオ30・31・38面

朝日新聞大阪本社

発行所 〒530-8211 大阪市北区中之島3-2-4
 電話 06-6231-0131 www.asahi.com

朝日新聞 2011.12.09付
 信頼確立へ「遺品整理士」

信頼確立へ「遺品整理士」

亡くなった人の遺品を整理する「遺品整理士」の資格を、広島市安佐北区のリサイクルショップ経営、伊達憲司さん(60)が取得した。資格はできたばかりで、取得は全国で2番目、中国地方では初めて。誰にもみとられずに亡くなる独居死は年間数万人とも言われ、注目されている仕事だ。

広島市の伊達さん 全国2番目に資格

資格を認定する社団法人「遺品整理士認定協会」(北海道千歳市)は今年9月に設立された。伊達さんは11月に通信講座を受講し、試験に合格した。

伊達さんは18年前に大手スーパーを退職。清掃業の代理店を経て、1998年、リサイクル店「やりくりじょうず」を開いた。2004年11月から、依頼者宅へ行って査定し、品物を買取り取るようにしたところ、遺品整理の依頼もくるようになったという。

毎月1、2回ほどで、これまでに県内全域で150件近く手がけた。料金の目安は、2ストラックに積める量で約4万円。「リサイクル店の強みで、その場で査定し、買い取ることができる遺品があればさらに安くなる」と伊達さん。遺品をすべて廃棄物として扱い、高額の料金を請求する業者もいるという。

方法手探り 業界で基準

伊達さんは、整理前に必ず室内で手を合わせる。長年故人が大切にしていた形見という意識を持ち、再利用できないか一つひとつ分別することになっている。

広島市内のマンションのオーナーからの依頼で、11月に90代の女性の遺品を整理した。その中に、女性が大切に収集してきた多くの貝殻があった。「ごみとして引き取る業者もあるだろうが、60年近くかけて集めてきた宝物と聞き、



「遺品には故人の思いが詰まっている」と語る伊達憲司さん(広島市安佐北区可部南3丁目「やりくりじょうず」)

き、買い取ることにした」。インターネットのオークションに出品し、宝物を受け継いでくれる人を探したという。伊達さんは協会の設立を知り、すぐに受講を決めた。仏壇の処理の仕方や、遺品整理後の室内の消臭法など、これまですべて手探りでやってきた。「協会が示した基準や方法は、これまでもやもやしていた部分を明示しており、徹夜で勉強した」と振り返る。

「遺品整理業が広く知られるようになったら、トラブルも増えるだろうと心配だったので、協会ができたのは前進」と伊達さん。「これから故人の思いを大切に、遺品整理業に励みたい」と話した。(倉富竜太)

高額料金・遺品紛失…明確な法律なくトラブルも

さだまさし原作で11月に公開された映画「アントキノイノチ」(瀬々敬久監督)では、心に闇を抱える若い男女が、遺品整理業を通じて心を通わす物語が描かれるなど、関心は社会的にも高まっている。

遺品整理士認定協会によると、独居死の増加で需要も高まり、参入業者が年々増加。リサイクル業者や便利屋、運送業者が多いが、現段階では遺品整理業に明確な基準や法律が

ないため、高額な料金を請求したり、遺品が紛失したりして、トラブルになるケースも少なくないという。

一定の基準を設けて業界を健全化しようと、北海道のリサイクル業者ら6社で協会を設立。弁護士や、孤独死を研究する大学教授も加わり、11月から資格の認定制度を始めた。北海道では特に、遺品整理で出たごみの不法投棄が問題になっていると

いう。テキストやDVDで、作業手順や供養の仕方、関係する法律などを学び、試験で一定水準以上の得点を取ると資格が取れる。

協会では「認知度が高まる一方、業界にはグレーな部分が多い。今後この認定制度が全国に周知されるかどうかが重要」としている。受講料は2万5千円。問い合わせは協会(0123・42・0528)。(倉富竜太)

「アントキノイノチ」映画化で社会的関心